



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/3 (月)	+ 1,000	▲ 17,500	▲ 16,500	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (2年)	国債補完供給 + 5,100		日: 日銀金融政策決定会合における主な意見 (1月23・24日分) 米: ISM製造業景況指数 (1月) 欧: ユーロ圏CPI (1月)
2/4 (火)	+ 1,000	▲ 84,000	▲ 83,000	法人税・消費税・保険料揚げ			
2/5 (水)	トン	▲ 1,000	▲ 1,000		共通担保 ▲ 8,000		日: 毎月勤労統計 (12月) 米: ADP雇用統計 (1月) 米: ISM非製造業景況指数 (1月)
2/6 (木)	トン	トン	トン				日: 田村日銀審議委員、講演 (長野県金融懇談会) 米: 新規失業保険申請件数 (2月1日終了週)
2/7 (金)	+ 1,000	▲ 9,000	▲ 8,000	国債発行 (30年)			米: 雇用統計 (1月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2兆7,500億円減少の520兆6,800億円から始まった。その後、国債補完供給オペや気候変動対応オペ、国債発行等の要因により増減し、31日は528兆4,500億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は前週24日の金融政策決定会合で政策金利の0.50%程度への引き上げが決定した影響で、週初27日は0.476%に大幅上昇した。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移し、週末31日の同金利は0.477% (速報) で越週した。

ターム物は1W~3W物0.481%~0.64%のレンジ、1M~3M物0.53%~0.62%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、3日に日銀金融政策決定会合における主な意見 (1月23・24日分) の公表、6日に田村日銀審議委員が長野県金融懇談会で講演。海外では7日に米雇用統計 (1月) の公表などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.47 ~ 0.478
1M	0.55 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.55 ~ 0.80
6M	0.60 ~ 0.90

### <レポ>

足許GC取引は週初+0.30%近辺から出合い始めたが、後場に+0.20%~+0.10%に低下した。輪番オペがあった28日は、0.10%近辺の出合いが中心となったが、後場には+0.20%近辺まで上昇。翌29日は+0.35%~+0.30%のレンジで取引されたが、月末を跨ぐ取引となる30日は、0.25%~0.15%に再び低下した。国債と短国の発行が重なる31日の取引は、後場引けにかけて+0.45%近辺まで上昇した。SC取引は2年460~468回債、5年155~174回債、10年355~370回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40近辺
CP 3M	0.50 ~ 0.60

### <CP>

今週の入札発行総額は約3兆5,900億円で、週間償還額の3兆1,000億円を上回った。発行残高は先週末時点の25兆7,004億円から、1月30日時点で25兆5,896億円に減少した。発行市場は、機械、電気業、不動産業、その他金融業などで大型の発行案件が見られた。決定会合での政策変更により、入札案件の発行レートは、1M物は政策金利である0.50%に限りなく近い値、3M物は0.50%台前半から0.60%台前半の出合いとなった。

28日にCP等買入オペが予定通り2,000億円でオファーされた。結果は按分レート0.540% (前回0.457%)、平均落札レートは0.580% (前回0.534%) と足切りレート、平均落札レート共に前回比で上昇し、過去最高のレートとなった。

来週の償還額は、1兆3,000億円となっている。発行市場は、償還額と同程度の発行が見込まれる。発行レートは、1M物は先週に引き続き0.50%台前半と横ばい圏で推移し、3M物は0.50%台後半の出合いから始まり、投資家の目線感を探る展開となるだろう。

### <TDB>

31日の3M (1284回債) の入札は、最高落札利回り0.3397% (前回債0.3733%)、平均落札利回り0.3248% (前回債0.3657%) となった。来週の入札は6日に6M、7日に3Mが予定されている。